

第4回明石市財政及び公共施設のあり方に関する検討会での主な意見の概要について

【本編 資料1】

◆ P.1 表紙 (イラスト)

- ・明石らしさが分かる写真やイラストと、まんがのキャラクターが登場する表紙にしてはどうか。
- ・東経 135° のまち、明石海峡大橋のように明石市の財政白書であることがわかるようにしてはどうか。

(目次)

- ・目次は「〇〇を知りたい方はこちら」のように、読みたいページにアクセスできるアシストがあれば読んでもらいやすいのではないか。
- ・目次と内容が視覚的に一致するようにしてほしい。

◆ P.2~P.7 1 明石市の財政のはなし(まんが)

- ・もう少し市民目線を入れた方がよいのでは。P.7 左下「今の財政は良好だけど余裕があるわけではない。限られた予算の中で市民の皆さんと一緒に考えて、使い道を選択していく必要がある」という意味合いの言葉になれば、後ろのページにも繋がっていくのではないか。
- ・資料全体として、市民の意見が市政に反映されているという点をもう少し強調すべきではないか。
- ・こどもの医療費などの「5つの無料化」について、財源が確保できているのかという声がある。その根拠が次ページ以降に続くため、財源は大丈夫なのかというまんがのコマを追加してはどうか。
- ・財政状況が改善し、人口が増加している現状は、市民が政治選択をした結果なので、全体的にポジティブな表現にした方がよいのではないか。
- ・市議会議員は、予算や決算の審議において、非常に重要な役割を担っており、そのような1コマを加えたほうがよいのではないか。その市議会議員を決めているのは、私たちということも市民の方に伝わればよいと思う。

◆ P.8~P.10 2 明石市の財政状況を見てみよう

- ・資料編につながる参照番号があれば、資料間の連携ができ、読み手の理解が深まると感じる。
- ・基金残高は増加しているので良好だと感じているが、公共施設の老朽化など目に見えない部分が進行していることもある。貸借対照表などの財務書類は、専門家以外が見ても理解しにくいからといって簡単なものを作る方向に進んでしまうと、伝えるべきことが伝えられない可能性がある。
- ・P.10 の実質公債費比率と将来負担比率の内容が難しく、削除してもいいのではないか。国の基準に基づいてその数字だけを見て判断した結果にすぎず、中長期的に収入と支出のバランスが取れているのかが分かる指標ではない。
- ・現金主義会計の面からの実質公債費比率と、発生主義会計の面からの将来負担比率という整理した上で、2つの比率を載せるのであれば問題はないと思う。一般の人が読むことを考えて、もう少しグラフに込められているメッセージを表記した方がよいのではないか。
- ・次年度には公共施設配置適正化計画の改定が控えており、その計画に繋げていくストーリーがやや見えにくい。財政上の問題点をあげ「市民の皆さんも協力ください」というストーリーがもう少し前面に出ればよいと感じる。
- ・財政白書はあくまでも決算ベースとしたものであって、将来どのように市政を進めるかは政策の話であり、市長・市議会・市職員の皆さんが市民の意見を聴きながら決めていくものと考え

◆ P.11 3 明石市の「おさいふ」の中身

P.12~P.22 4 明石市の決算（歳入・歳出）を見てみよう

- ・市民が見る上で、目的別経費と性質別経費の両方を載せる必要はないのではないか。
- ・基調色をもとに、全体に統一感を持たせる方法がいいのではないか。
- ・P.21 を削除して P22 の項目を増やしてはどうか。こども医療費のように大きい事業や、国保、介護、後期高齢者にどれくらいの繰出金があるのかを追加してはどうか。
- ・P.17 の人件費は不要ではないか。何を伝えたいのかが、はっきりしないと感じる。

◆ P.26 5 今後の明石市の財政はどうなるの？私たちにできることは何があるんだろう？

- ・この財政白書は、P.26 のように財政の現状を伝えるだけではなく、市民の皆さんに対してもできることを呼びかけるものであるという目的がはっきりしたとを感じる。
- ・検討会やタウンミーティングを開催していることは重要だと思う。市民参画のもとで進めており、市が考えて書いたわけではないというメッセージが伝わるようにしてほしい。
- ・健全な財政運営というのは負担軽減だけではなく、お金をどう使うのかをみんなで考えていくという方向性もあると思うので、その面を伝えられるようにしてはどうか。